

発表趣旨

過去の津波に関するモニュメント群に対する住民の関与の傾向を定量的に検証するために、2023年の盂蘭盆会にあわせて岩手県内で悉皆的踏査を実施した。結果約2割のモニュメントに関与の形跡が確認され、その対象の多くは供養碑型のモニュメントであることが明らかとなった。

研究目的

本研究は、「津波モニュメント」(※1)が、**現在地域住民との間にどの程度関係性を有しているか、定量的に検証**することを目的とする。

※1「津波碑」などとも呼ばれるが、「碑」というカテゴリで括り得ないものも含まれているため、本報告では「災害伝承や犠牲者供養を目的として、過去の津波災害に動機づけられて設けられた人工物(ただし現代の標識・表示類を除く)及びそれに準ずる意味を見出された災害遺物(吉浜の津波石など)」を「津波モニュメント」と定義する。同様の定義に合致するものが、岩手県内では**275基**確認されている(東日本大震災で流失したもの、経年により撤去されたものを含む)。また、「**供養碑型**」、「**記念碑型**」、「**標石型**」の3種に大別される。



左より

- ・ 供養碑型の事例(洋野町八木)
- ・ 記念碑型の事例(宮古市重茂姉吉)
- ・ 標石型の事例(大船渡市末崎町)

調査方法

2023年8月13日～16日、及び18日の5日間にわたり、岩手県内の津波モニュメントを悉皆的(※2)に踏査、住民の関与の痕跡の観察と聞き取り調査(付近に参拝者がいる場合)を実施。関与の痕跡が確認されたものについては、以下の区分に従って計数した。

- ① 2023年の盂蘭盆会における関与が明確なもの。
- ② 関与の時期が盂蘭盆会期間と断定できないもの、及び関与の対象が津波モニュメントに焦点化されていないもの(対象を含む石碑群全体にお供えがされている場合など)。

※2 13日から14日にかけて、岩手県沿岸部広域に警報を伴う豪雨が発生したため、アクセスが困難と判断されたものについては踏査を見合わせた。

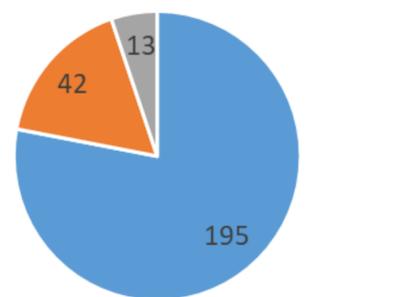
調査結果・考察

《調査結果》

調査対象**250基**

- ・ 関与の痕跡が認められたもの：**55基**(22%)
[内訳] ①：**42基**(16.8%)
(供養碑型：34、記念碑型：8) ※3
②：**13基**(5.2%)
(供養碑型：11、記念碑型：1、他：1)
- ・ 関与の痕跡なし：**195基**(78%)

※3 ①の42基中、8基の記念碑型モニュメントの内5基は盂蘭盆会と親和性の高い**墓地や寺院**に所在。



■ 痕跡なし ■ 痕跡あり① ■ 痕跡あり②

集計結果



関与の事例

《考察》

(1) 関与の痕跡を有する津波モニュメントの内訳中、供養碑型の割合が突出

→教訓や浸水域を示す記念碑型、標石型に比べると現代的な防災上の位置づけが困難な供養碑型が、盂蘭盆会期間の住民の関与率においてはむしろ優位である。

(2) 明確に津波モニュメントと認識しないまま関与を行っている事例の散見

→このような潜在的な接点を足掛かりとすることで、供養碑型モニュメントも地域防災の中で活用をはかっていくことができるのではないか。